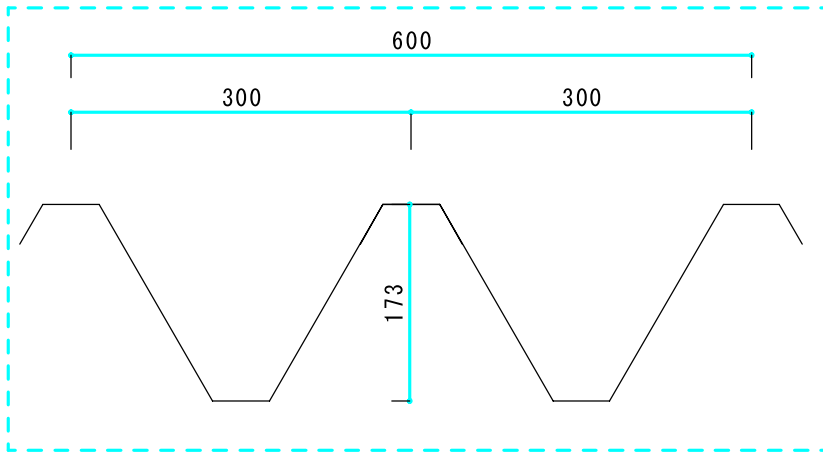


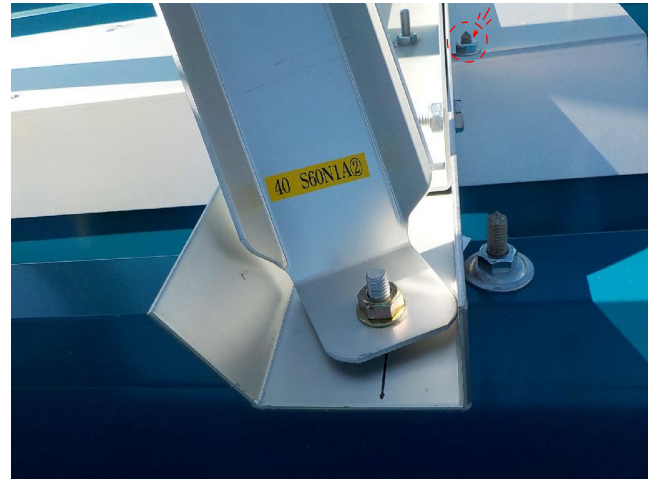
# NO、 1 1 アルミルーフデッキ B

ルーフデッキH 1 7 3 折板



ルーフデッキH 8 8 折板  
ルーフデッキH 1 5 0 折板

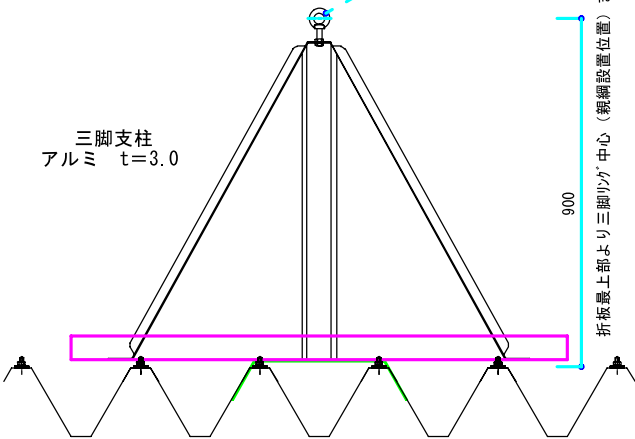
折板タイトフレームホルトに固定



4分 ナット+4分ナット2ヶ+4分ボルトL=52mm

三脚支柱  
アルミ t=3.0

900  
折板最上部より三脚リフト中心(親綱設置位置)までの寸法

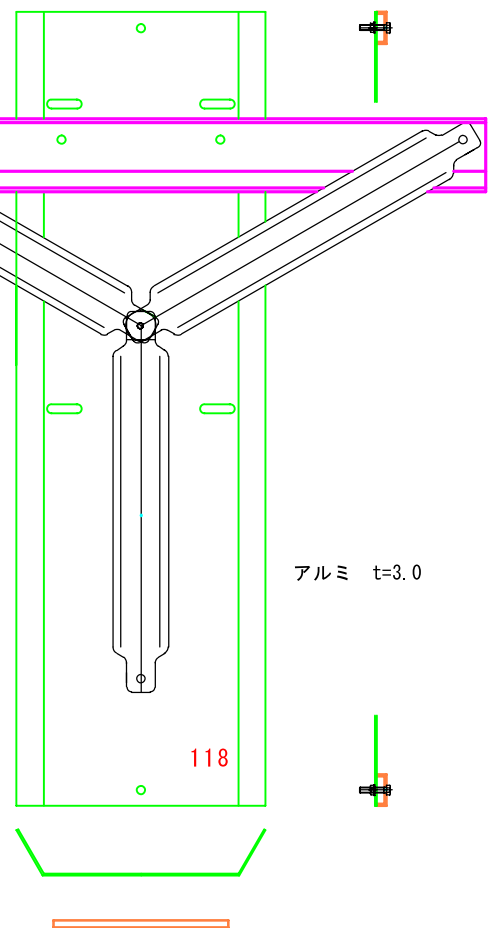


アルミ t=6.0

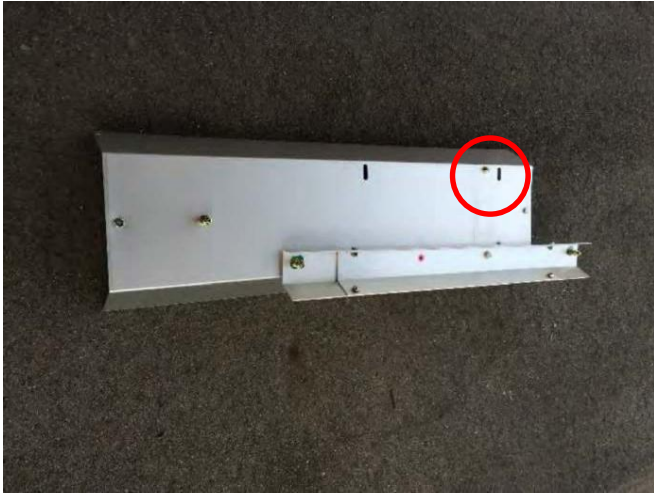


アルミ t=3.0

118



# 三脚支柱アルミルーフトッキ H88取付手順



① 赤丸印のボルト、ナットをはずす

画像はH88折板ですが、H150、173も同様に取付けます。



② 腕を90度回転させ、はずしたボルト、ナットを丸穴に入れ、腕を17mmソケットにて固定（長穴はタイトフレームボルト固定用です）



③ 既設タイトフレームのボルトのネジ山に付属のナット（2分半）が取付できるか確認。ネジ山が腐食しナットが廻らない場合、ネジ切ダイス等でネジ山を再生（折板のジョイント部のボルトは使用しない）

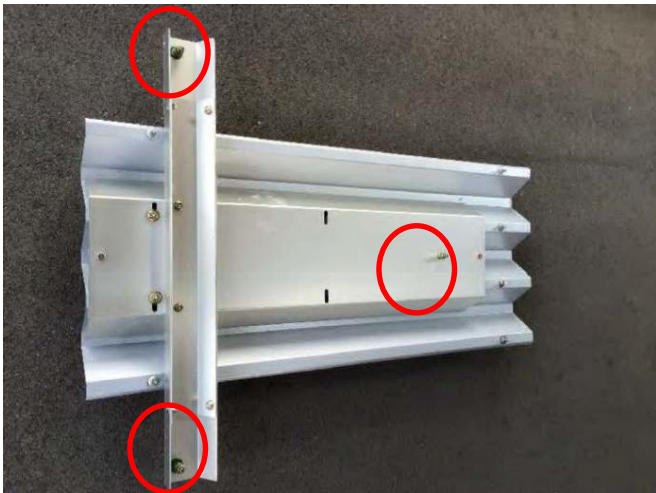


④ 軒先側折板のタイトフレームボルトとベース材の長穴を貫通させる。

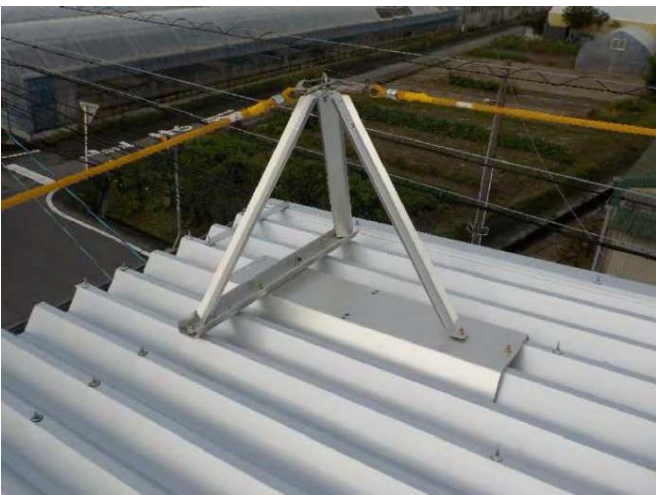
# 三脚支柱アルミルーフトッキ H88 取付手順



⑤ 付属の山座を裏返し  
ボルトに通しナットで固定  
(14mmソケット)



⑥ 赤丸印の 17mm  
ナットをはずす。



⑦ 三脚支柱をひろげ⑥  
の赤丸印のボルト3箇所に  
三脚の脚を貫通させ  
ナットで固定しボルト下の  
ナットを21mmのソケットで  
固定し完成



ケラバ部の設置状況  
ベース材の中央の長穴をタ  
トフレームのボルトに固定  
(軒先側はベースの先端の  
長穴を使用しケラバ側は中  
央の長穴を使用)

## 三脚支柱 アルミルーフデッキ H88取付状況



この2箇所タイトフレームのボルトにて三脚支柱を固定

### 既存のタイトフレームボルトのサビによる劣化の対処方法



既存のナットを廻すとボルトがせん断する場合は、三脚支柱アルミルーフデッキの取付は不可能

ナットのみが廻る場合は、ボルトのサビをワイヤブラシ等で清掃してから、取付可能

# 三脚支柱アルミルーフトレッキ ワンサイドボルトと干渉した場合

## ① 仮置き

三脚支柱アルミルーフトレッキ本体を仮置きし  
ようしたら、折板のワンサイドボルトと干渉



## ② ワンサイドボルト切断

客先等に了承を得て、セーバーソー等で  
ナットから上部を切断



## ③ 切断部タッチアップ

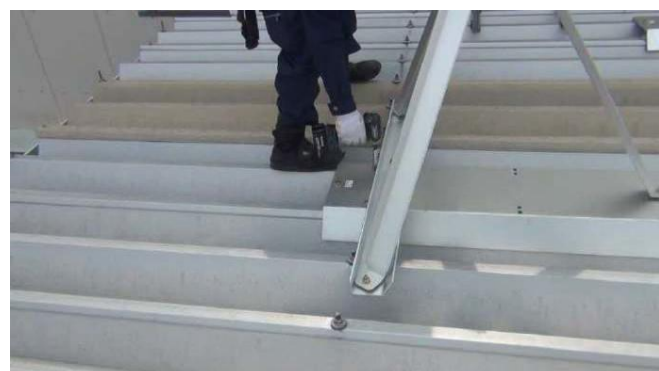
サビ止め塗料等にて切断部塗装



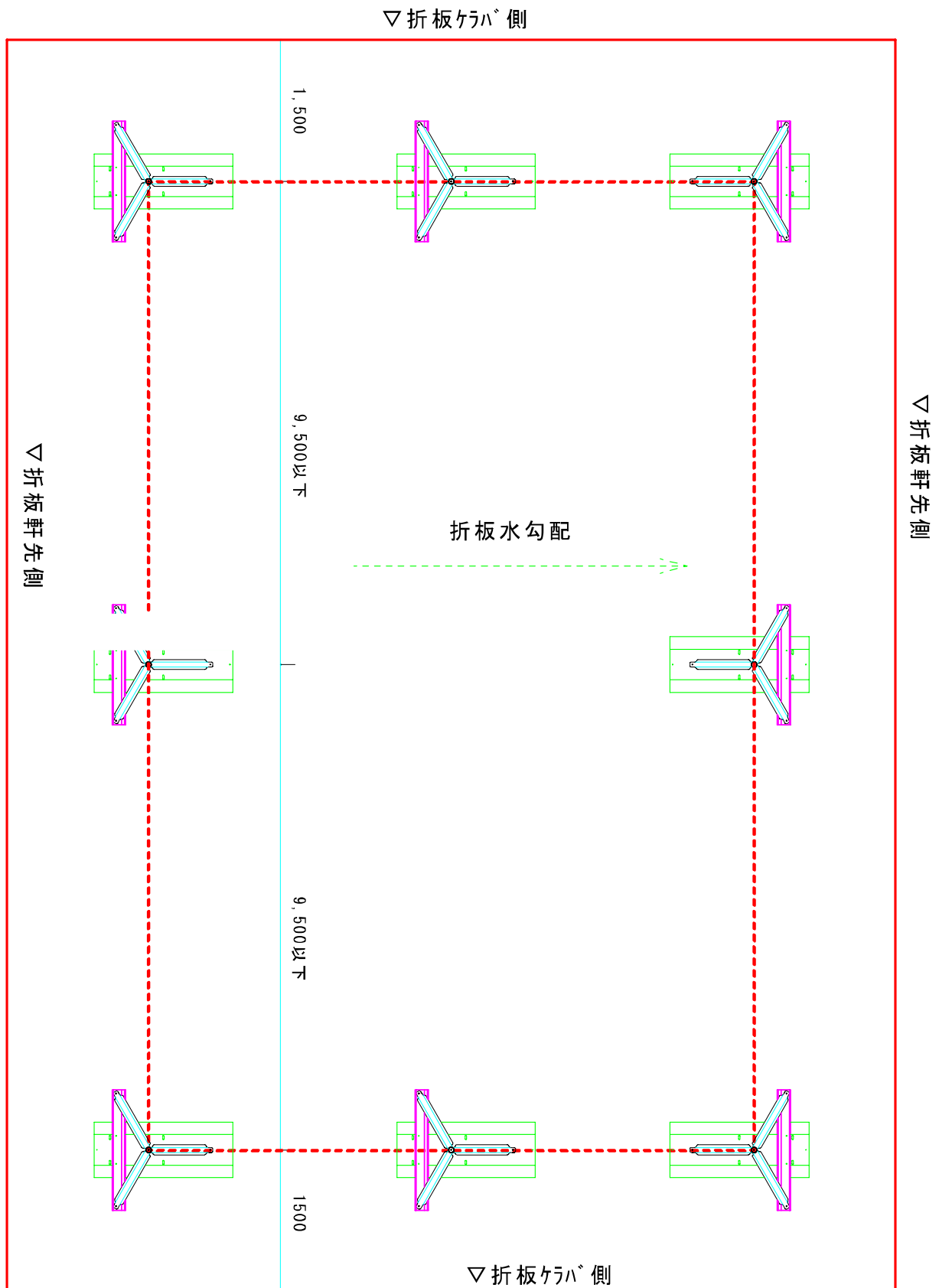
## ④ 三脚支柱本体取付

タイトフレームボルトに取付

ボルトのナットをしっかりと固定し親綱設置  
(締付けトルクはトルクレンチにて**55N・m**とする)



# ボルト式折板設置位置



タイフレームボルト位置に設置  
 出隅は1台でよい  
 屋根勾配は40%までとする

取付及び使用する前には必ず使用基準をお読み下さい

- 1 衝撃するおそれのある床面等より **4m以上の高さ**が折板の上部で確保されていること  
フルハーフの安全带使用時には、**4.5m以上の高さ**を確保すること（平成 28 年 4 月追記）
- 2 折板の形状は角ハーフ 500（300）、丸ハーフ 500（300）、BL500、ルーフィングとし、それぞれ指定した掴み金物を使用すること（掴み金物の取付困難な折板及びへこみ等で変形した折板には使用禁止）
- 3 掴み金物と折板の隙間は専用の保護ゴムシート  $t=1.2\text{mm}$ にて養生すること（1型のみ）
- 4 三脚支柱の間隔（1スパン）は **9.5m以内**とし、**1スパン1人**までで使用すること
- 5 三脚支柱の中心が折板端部（軒先、ケバ、開口部）より離れ **1.5m以上**離して設置すること
- 6 必ず支柱用親綱はポリエステル製φ16（仮設工業会認定品）を使用し（ワイヤロープ等は使用禁止）緊張器にて十分緊張させること
- 7 折板施工時、三脚支柱を設置する場合は、掴み金物を取付ける箇所より流れ方向上下 **4m以上連続ハーフ締め完了後**、掴み金物を取付けること
- 8 墜落等で衝撃を受けた支柱及び変形をした掴み金物は使用しないこと
- 9 設置及び撤去作業時は**保護手袋**を着用すること
- 10 丸ハーフ、BL500の掴み金物の取付方向は別紙③、④にて確認が必要（下記QRコード内の別紙参照）
- 11 安全带（ランヤード長さL=1.7m以下）、支柱用親綱は安全性の確認されたものを使用すること
- 12 折板屋根の勾配は10%以下とします
- 13 三脚支柱の上部リングに直接安全带を使用しないこと
- 14 折板**出隅部の三脚支柱の設置は下記QRコード内別紙⑤の基準**による  
（出隅部は**三脚支柱が連続して2脚必要**）
- 15 三脚支柱、掴み金物等部材は放り投げたり衝撃を与えないこと
- 16 掴み金物を折板に固定するトルクは **5.5kN・cm** とすること
- 17 親綱、安全带等が落下衝撃により折板の端部等にて損傷されるおそれがある場合は事前に養生等を行うこと、又タイトフレームのスパンや折板の板厚等により落下衝撃による折板の損傷具合は異なる
- 18 下記QRコード内の三脚支柱取扱説明の各資料を確認すること
- 19 三脚支柱使用時はフルハーフの安全带の使用を推奨とする。



## ルーフデッキタイトフレームボルトネジ山 再生方法<例>

タイトフレームのネジ山にナットが取付できない場合は、ネジ切ダイスにてネジ山を再生して下さい。

ネジ切ダイスは別途用意して下さい。



一般的に使用されているネジ山は  
5/16か3/8が多いです。



